

	課題分析	授業改善策
1年	1学期の様子を通して 計算については、概ねできているが、文章問題で聞かれたことに対する答え方や単位に迷ったり理解できていなかったりする児童がいた。学習したことを振り返れていないか、生かしきれていないことが考えられる。	○文章問題で何を聞かれているかに対して、どのような答え方をすればよいか、単位は何なのかをその都度例示するなどして法則性に気付きやすいようにする。 ○めあてに対する学習の振り返りをワークシート（◎○△を選ぶ）で行い、内容の定着を図る。
2年	文章を読んで問題の意味を理解し、適切な計算式を立てるという思考力・判断力に課題がある。特に、問題文の中から必要な情報を見付け出し、不要な情報を除く能力や具体的な事象を数式に置き換える力が不足している。	○単に問題文を読ませるだけでなく、実際にその場を再現したり、具体物を使って操作したりする活動を積極的に取り入れる。 ○問題文を読んだ後、「何が問われているのか(聞かれていること)」「どうすれば答えが分かるのか(考える道筋)」「どんな式になるのか」を常に意識させる支援や助言をする。 ○図や線分図、絵などを活用して、文章の内容を視覚化する習慣を付けさせる。
3年	掛け算九九は概ねできるが、割り算の文章問題になると、一人分と何人に分けられるかの違いを十分に理解できていない児童もいる。巻き尺を使った正確な測り方や読み方がまだ十分でない児童が見られる。また、kmやmの長さの量感がつかみづらい児童が多い。時計を読むことができない児童が一定数見られる。読むことはできても、ある時刻から一定時間前の時刻を求めることが難しい。	○等分除、包含除の場面の問題を用意し、答えの見付け方を考えさせ、発表する機会をできるだけ多く設定する。 ○巻き尺の扱いや長さについては、理科の飛距離の実験や体育の幅跳び等、社会の地図の読み取りを通して量感の想定を高める。 ○朝の計算タイムではかけ算九九だけでなく、繰り上がりのたし算、繰り下がりのあるひき算も繰り返し実施する。
4年	コンパスや定規、分度器などの道具を使った作図方法の理解が不十分である。 桁数が多い掛け算の筆算では、計算手順の間違いが多く見られる。	○朝の計算タイムの時間を使ってコンパスの操作練習を十分にさせる。最初は、簡単な円の作図を行い、段階的に様々な図形を組み合わせるなど複雑な作図に挑戦させる。 ○計算問題では「見積り」を意識させ、計算結果の大体の見当をつけるようにする。 ○筆算を書くときには、一マスに一つの数字を書くことを徹底させる。ノートの書き方の見本を示し、問題と問題の間を空けて書く習慣を付けさせる。
5年	「小数のわり算」の正答率が15.2%、「がい数」の正答率が35.8%となっていることから、「A数と計算」の内容を苦手としている児童が多いことが予想される。また、「折れ線グラフの読み取り」の正答率が13.2%だったことから、データの読み取りと解釈に大きな課題があると考えられる。	○既習事項の復習を丁寧に行う。特に整数の割り算の筆算の仕組みや小数のかけ算の考え方については、苦手な児童が多いことを留意した上で指導を行う。 ○実生活や他教科との関連付けを意識した指導を行う。特に、グラフや表の学習については、身近な事柄を題材にした課題解決学習を行うなかで、身に付けたい力を育んでいく。

6 年	複数の概念を統合したり、複雑な手順を踏んだりする計算に大きな課題がある。特に分数の乗除、公倍数・公約数は、その後の学習の基礎になる重要な概念であるので、深刻な状況である。 基本的な図形の定義や面積の求め方などの知識が不足している。	○公倍数・公約数、分数の乗除、割合などは、指導内容を細かくスモールステップに分け、児童が理解できているか細かく確認する。 ○問題の意図を読み取り、解決方法（演算決定も含む）を自分の言葉で説明させる活動を増やす。これにより、理解の曖昧さを明確にし、理論的な思考力を育む。
--------	---	--

	課題分析	授業改善策
1年 (国語)	アンケートでは、約85%の児童は話すことが好きと答えている。しかし、約25%の児童が、相手の話を聞くことに否定的な回答をしていて、「友達が話したことは分かるか。」という質問でも同じくらいの割合の児童が否定的である。実際、集中して話を聞くのが苦手な児童が多く、話の内容を聞き逃すことが多い。	○自分のことを話すのが好きな児童は多いので、その都度「話を聞いてなかったら悲しいよね。」と相手の立場や思いに寄り添う指導を心掛ける。 ○話を聞く場面と話す場面、活動する場面を分け、メリハリをつける。 ○合図を出し、話を聞く場面であることを自分で気付けるようにする。 ○話を聞くとときに緊張感をもたせる。 ○相手の話を聞くとときに、感想や質問を言う機会を設け、より聞きたいという意識がもてるような場を工夫する。
2年 (国語)	アンケートでは、話すことや聞くことでコミュニケーションをとることについては全員が好きだと答えている。しかし、「自分の思いを友達に伝えているか。」という質問項目について、1割の児童が否定的な回答をしている。また、友達の話を最後まで聞かずに自分の意見を述べてしまうような場面も見受けられている。	○自分の思いに自信がもてるよう、自分の思いを書く時間を設定し、思いを明確にするための時間を意識的に確保する。自信のない児童には定型文を示しながら、自分の気持ちに沿うような文を使って表現するように指導・支援する。 ○最後まで話を聞くことの大切さを指導し、それを受けた意見を述べるようにしていく。
3年 (外国語活動)	アンケートによると、外国語活動に意欲的に取り組んでいるが、自分の伝えたいことを外国語で伝えたり、発表することに照れを感じたりしている児童も3割程度いる。ALTや友達と、外国語を使ってコミュニケーションをとりたいと思っているが、会話のフレーズが分からず、日本語を入れながら交流している児童も一定数いる。	○より楽しく、進んで取り組めるように様々なアクティビティを取り入れていく。 ○自信をもって発表できるようにするために、交流する相手を、形態を変えながら段階的に広げていく。 ○毎回の授業で、チャンツを取り入れて、繰り返し発することで、日常会話で使うフレーズに慣れるようにしていく。
4年 (外国語活動)	アンケートによると、外国語活動や外国語での交流を楽しく感じ、意欲的に取り組んでいる。自分の考えたことを外国語で伝える活動には、恥ずかしさもあり、うまく伝えられていないと感じる児童が4割程度いる。全体の前で外国語を話すことに躊躇する様子も見られる。	○全体でのアクティビティを多く取り入れ、学習したフレーズを繰り返し伝える機会を作る。 ○ALTと児童がコミュニケーションをとる時間を多く設定する。 ○友達の発表を全体で聞き、全員でクラブチャントをするなどリアクションをするようにしていく。
5年 (外国語科)	アンケートによると、外国語科における意欲は高く、どの項目でも肯定的な意見が多かった。特に、「ALTと話すこと」については、9割以上児童が好きと回答していることから、コミュニケーションの楽しさを実感している児童が多いと考えられる。一方で、既習事項を用いて、コミュニケーションを図ることについては、課題が見られる。また、振り返りをする際に、「〇〇が楽しかった。」「〇〇ができた。」に留まり、単元の目標に迫った記述を書いている。	○「話すこと」「聞くこと」だけでなく「書くこと」「読むこと」を通して、英語表現や語彙を覚えられるようにし、自分の考えたことを外国語で伝える力を伸ばしていく。 ○単元の導入で言語活動(Final Activity)を明確にする。また、毎回の振り返りでは、視点を示した上で、本時のめあてと学習について具体的に振り返られるようにする。

	ない児童も一定数いた。	
6 年 (外国語科)	アンケートによると、外国語科の授業についての意欲は高い。「既習事項を使って自分の考えを表現している」や「外国語で自分の考えを伝えている」についても概ね高い回答になっているが、授業中のやり取りの様子を見ていると、一文で終わっている児童が多く、さらに相手に質問したり、会話を続けたり等のコミュニケーションを図ることが課題である。	○既習事項を繰り返し使えるように指導していくことは大事であるが、それが形式的なやり取りで終わらないよう、必然性をもつことができる授業環境を考えていく。(small talk や帯活動の充実を図る) ○単元のゴールを明確に設定し、児童自らが具体的に見通しをもてるようにしていく。